

4 施策ごとの実績と効果

- 本章では、第四次計画に位置付けた各施策について、計画期間内の主な実績（取組）と効果を整理しています。
- 以降の各施策ページは、実績・効果・写真・図表等を一体的に確認できる構成としております。

各施策ページの読み方



①：分野・柱

第四次計画における分野・柱を表示しています。
活力・快適「**いかす**」、防災・減災「**まもる**」、
長寿命化・持続可能「**つなぐ**」、社会資本整備を**効果的**に
進めるための施策の4区分で構成しています。

②：重点目標

各分野における重点目標を表示しています。
第四次計画では、計13の重点目標を設定しています。

③：施策

重点目標を達成するための具体的な施策を表示しています。
第四次計画では、計35の施策を設定しています。

④：指標

施策の進捗を把握するため、具体的な数値目標を設定した指標を表示しています。
第四次計画では、計27の指標を設定しています。
指標が設定されていない施策は、当該欄を省略しています。

⑤：実績

計画期間内に、県が実施した整備、支援、調査、普及啓発等の
主な取組を記載しています。

⑥：効果

実施により発現した効果や、今後の効果発現に向けて形成
された基盤等を記載しています。

⑦：写真・図表など

整備状況、整備前後の比較、位置、取組内容等を視覚的に
示しています。

※事業が継続中の施策については、現時点で確認できる進捗や今後の効果発現に向けた取組状況を含めて整理しています。

実績

- 中部横断自動車道（静岡～山梨間）の全線開通（令和3年8月）
- 新山梨環状道路（東部区間Ⅰ期）の供用開始（令和4年11月）及び
新山梨環状道路（北部区間（広瀬～桜井））の用地取得着手（令和4年12月）
- 富士吉田忍野スマートICの供用開始（令和4年7月）
- 新山梨環状道路（東部区間Ⅱ期）、（仮称）甲府中央スマートIC及び新たな御坂トンネルの供用開始に向けた事業推進

※リニア開業は2034年以降に延期（JR東海）

効果

- リニア駅へのアクセス性向上
- 供用済み道路等による県内外アクセス性の段階的向上
- 高速道路・スマートICの機能強化による人流・物流の円滑化への寄与
- リニア開業効果の県全域への波及を支える広域交通ネットワークの強化

新山梨環状道路（東部区間Ⅱ期）



新山梨環状道路（東部区間Ⅰ期）



リニア駅から30分以内にアクセスできる圏域



※第四次計画策定時（R1）の想定図

新山梨環状道路（北部区間（広瀬～桜井））



用地幅杭打ち式（R4.12）

中部横断自動車道
（身延山IC）



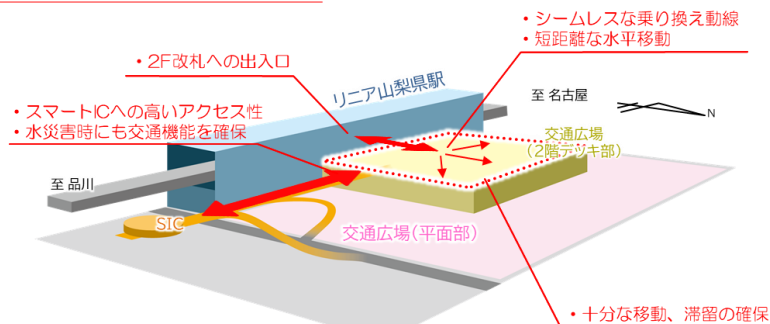
富士吉田忍野スマートIC



実績

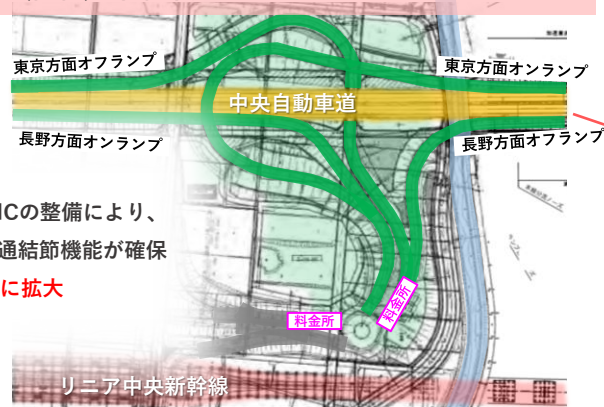
- リニア駅への1号線アクセス道路の工事着手
- （仮称）甲府中央スマートICの整備に向けた関係機関・地元との協議調整の実施
- （仮称）甲府中央スマートICの整備について、
NEXCO中日本からの用地取得事務の受託、用地取得着手（令和4年度）、
ランプ橋、市道・河川付替え工事の推進（令和4年度から工事着手）

交通結節機能やスマートICの整備



交通結節機能の整備の具体化

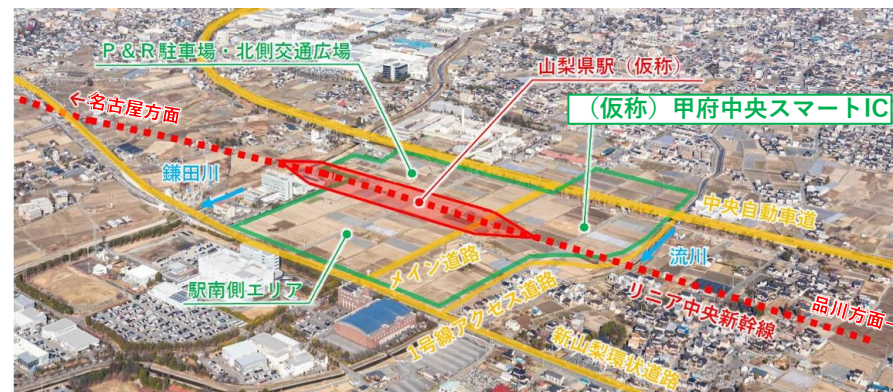
（仮称）甲府中央スマートIC



（仮称）甲府中央スマートICの整備により、
リニア駅と県内各地との交通結節機能が確保
され、30分到達圏域がさらに拡大

効果

- リニア駅周辺における交通結節機能の確保に向けた基盤形成
- 中央自動車道、新山梨環状道路及び中部横断自動車道との接続性向上に向けた道路ネットワーク整備の進展
- リニア開業後の県内各地とのアクセス向上、交流人口の拡大及び地域経済活性化を支える交通基盤の形成



リニア駅周辺整備の概要

ランプ橋、市道・河川付替え工事を実施中



全体の状況



ランプ橋下部工工事

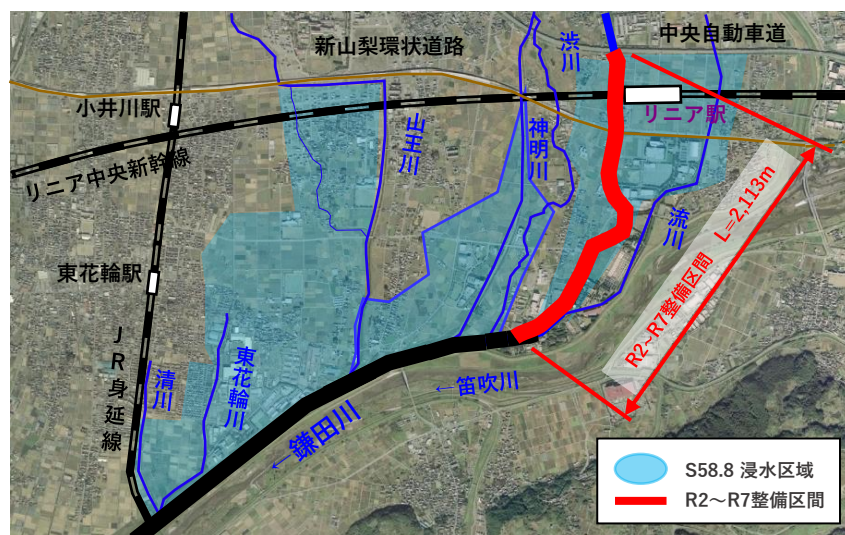
実績

- リニア駅周辺の基盤整備に合わせた鎌田川の河川改修工事を実施し、延長2,113mの河道の拡幅完了
- 駅周辺開発を支える治水基盤を確保

効果

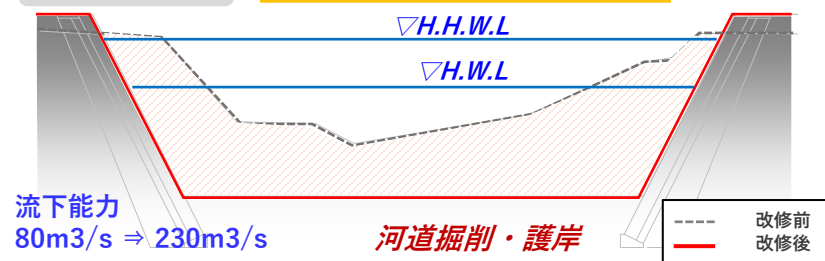
- 流下能力の $80\text{m}^3/\text{s}$ から $230\text{m}^3/\text{s}$ への向上による治水機能の強化
- 大雨時における河川氾濫・浸水被害リスクの低減
- 冠水・浸水被害の軽減による地域の治水安全度の向上
- リニア駅周辺における安全・安心な開発環境の形成

鎌田川の改修



整備イメージ図

流下能力が約3倍と大幅に増加



過去の被災状況



昭和58年8月 台風5号に伴う出水
(旧玉穂町付近)



平成12年9月 台風14号に伴う出水
(甲府南部工業団地付近)



実績

- 談合坂スマートICの供用開始（令和2年5月）及び
富士吉田忍野スマートICの供用開始（令和4年7月）
- 国道138号（須走道路・御殿場バイパス）の開通（令和3年4月）
- 中部横断自動車道（静岡～山梨間）の全線開通（令和3年8月）
- 中部横断自動車道（長坂～八千穂間）の早期事業化に向けた要望活動の実施
- 中央自動車道の渋滞対策促進に向けた要望活動の実施

効果

- スマートICの供用開始による高速道路利用圏域の拡大及び地域アクセス性の向上
- 国道138号（須走道路・御殿場バイパス）の開通による富士北麓地域と静岡方面との連携強化
- 中部横断自動車道（静岡～山梨間）の全線開通による移動時間短縮、代替路確保及び物流効率化
- 未整備区間の整備促進及び中央自動車道の渋滞対策推進による広域道路ネットワーク機能のさらなる強化への期待

中部横断自動車道（長坂～八千穂間）

環境影響評価・都市計画の手続き中

早期事業化を求め
要望活動等を実施

沿線地域の
活動が活発化



山梨・長野両県知事が沿線首長
からなる懇話会と国へ要望(R7.12)



ROUTE日本海－
太平洋促進大会(R7.10)

中部横断自動車道（静岡～山梨間）

令和3年8月 全線開通

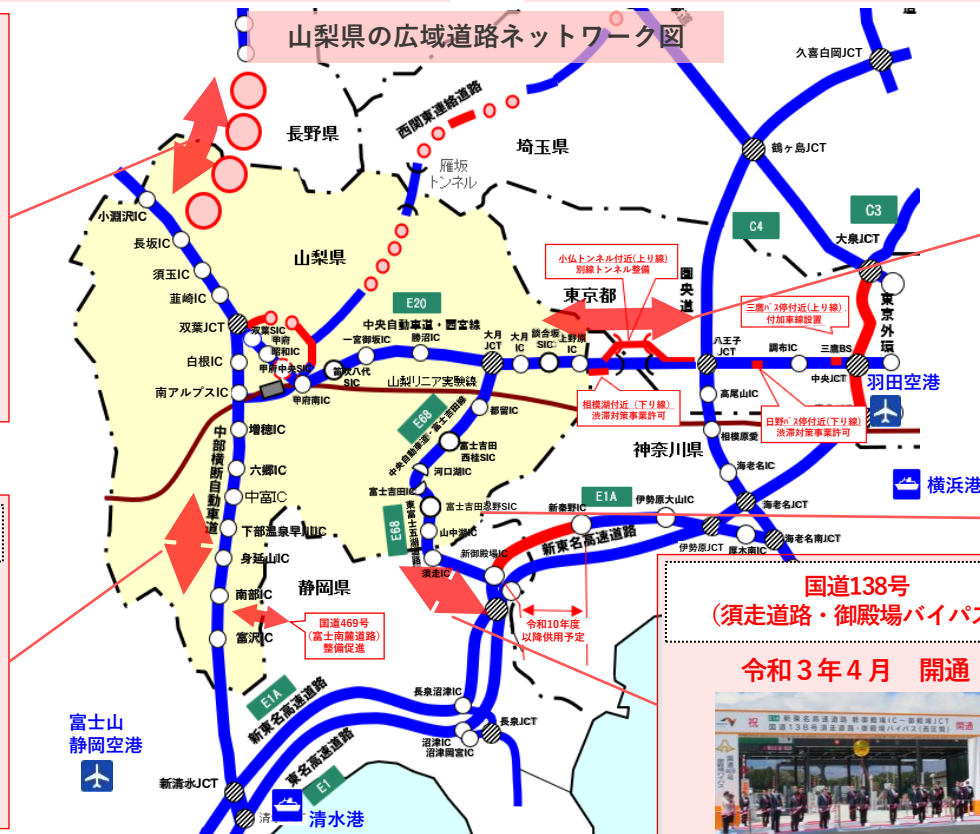


開通式



南部IC

山梨県の広域道路ネットワーク図



中央自動車道（小仏トンネル付近）

付加車線設置による 渋滞対策事業を実施中

事業中箇所の
工事進捗



R4年4月に掘削を開始した
新小仏トンネル(仮称)施工中

促進大会や
要望等を実施



中央道渋滞対策促進協議会
(R7.11)

富士吉田忍野スマートIC

令和4年7月 供用



国道138号 （須走道路・御殿場バイパス）

令和3年4月 開通



指標	当初 (R1)	実績 (R7)	目標 (R7)
指標3: 広域道路ネットワークに資する路線の整備延長 (km)	0.7	25.5	25.5

実績

- 国道300号（中之倉バイパス）、（主）市川三郷富士川線（富士橋）をはじめとする幹線道路等計25.5kmの供用開始
- 未供用路線における早期供用開始に向けた事業推進

効果

- 幹線道路ネットワークの整備進展による県内拠点間のアクセス性向上
- 移動時間の短縮や走行性の向上による利便性・快適性の向上
- 地域間交流、物流効率化及び地域活力向上を支える道路基盤の形成

主な供用開始箇所



国道300号（中之倉バイパス）（身延町）



（主）市川三郷富士川線（富士橋）（富士川町）



（一）休息山梨線（山工区）（甲州市）



新山梨環状道路（東部区間Ⅰ期）（甲州市）



国道411号（上萩原Ⅲ期バイパス）（甲州市）



（一）梁川猿橋線（太田バイパス）（大月市）

実績

- （都）山梨市駅南線（日川街道踏切手前～加納岩小学校南交差点）、
 - （都）田富町敷島線（真福寺入口交差点～山県神社北交差点）及び
 - （都）新環状・緑ヶ丘アクセス線（緑ヶ丘1丁目地内）等、
- 都市計画道路約2.9kmの供用開始
- 未供用路線の早期供用に向けた整備推進

主な供用開始箇所

（都）山梨市駅南線（加納岩小学校南交差点）

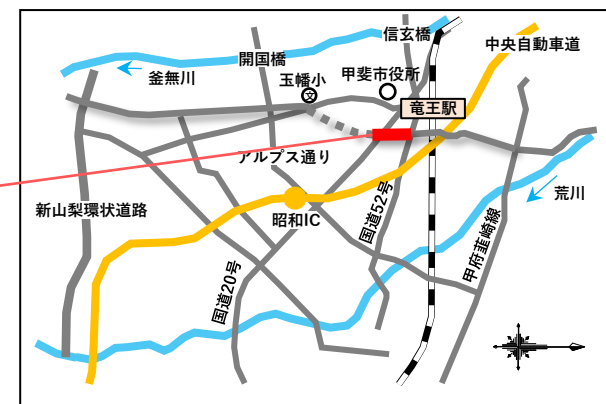
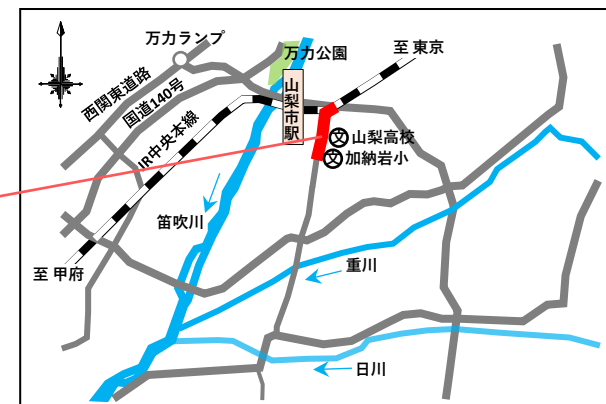


（都）田富町敷島線（真福寺入口交差点）



効果

- 都市計画道路の整備による市街地交通の円滑化
- 渋滞緩和及び移動利便性の向上
- 歩行者・自転車の安全性向上
- 学校周辺区間における安全で快適な通学環境の形成



指標	当初 (R1)	実績 (R7)	目標 (R7)
指標5:主要渋滞箇所の対策箇所数(箇所)	31	36	36

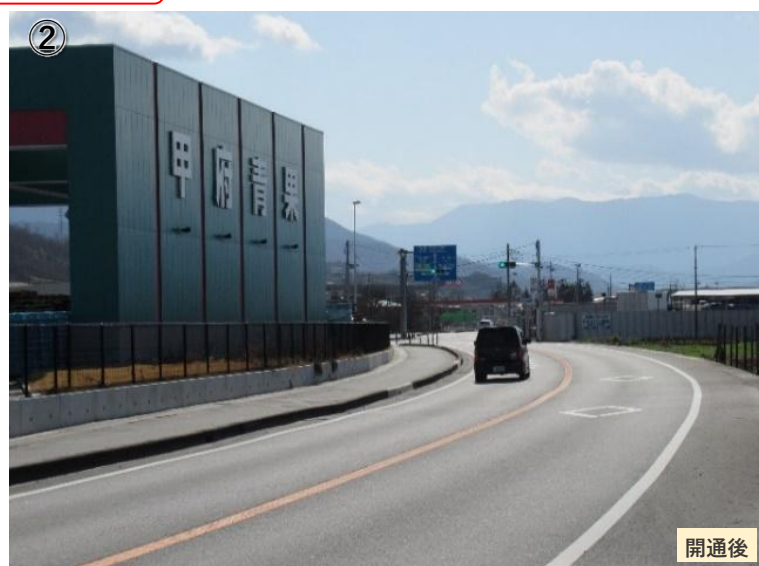
実績

- 新山梨環状道路(東部区間Ⅰ期)の開通により、国道140号(笛南中北1交差点(西進方面))をはじめ、主要渋滞箇所4箇所の解消
- バイパス整備、現道拡幅、交差点改良等による渋滞対策の推進
- 新山梨環状道路(東部区間Ⅱ期)等の早期供用に向けた事業推進

効果

- 主要渋滞箇所の一部解消による市街地交通の円滑化
- 交通分散による移動時間の短縮及び定時性向上への寄与
- 交通流の円滑化による環境負荷軽減及び交通安全性向上への期待
- 新山梨環状道路(東部区間Ⅱ期)等の整備による更なる渋滞解消効果の発現見込

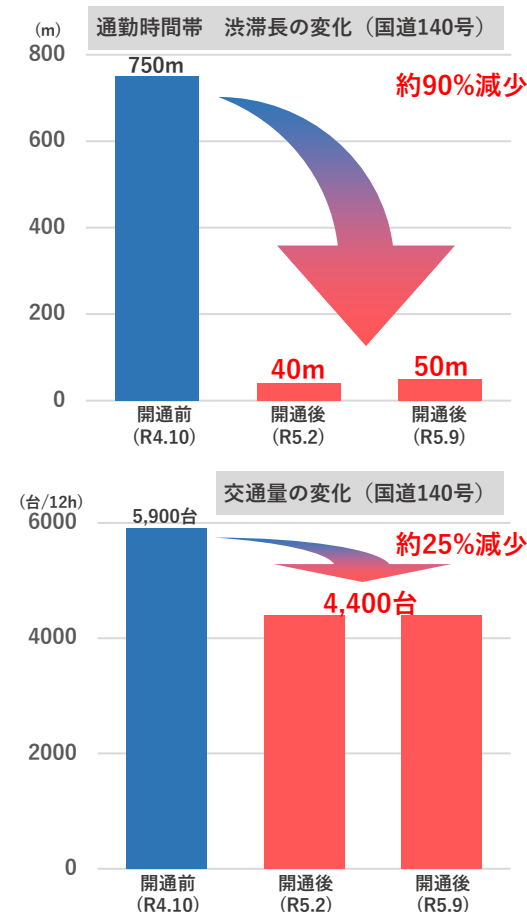
渋滞解消箇所：国道140号(笛南中北1交差点(西進方面))



新山梨環状道路(東部区間Ⅰ期)開通(R4.11)により、渋滞解消

利用者の声

- ・ 通勤面：通勤時間の短縮が図られた。就業時間に間に合うようになった。
- ・ 物流面：1日に何度か工場と往復するが、1回あたり10分程度短縮でき、大きな時間短縮となった。



実績

- (主) 茅野北杜葦崎線(新府バイパス)や(一)富士吉田西桂都留線(小沼バイパス)等、観光周遊ルートとなる道路23箇所の整備
- 県内全域の主要観光地を結ぶ道路ネットワークの整備推進
- 線形改良、現道拡幅等の実施

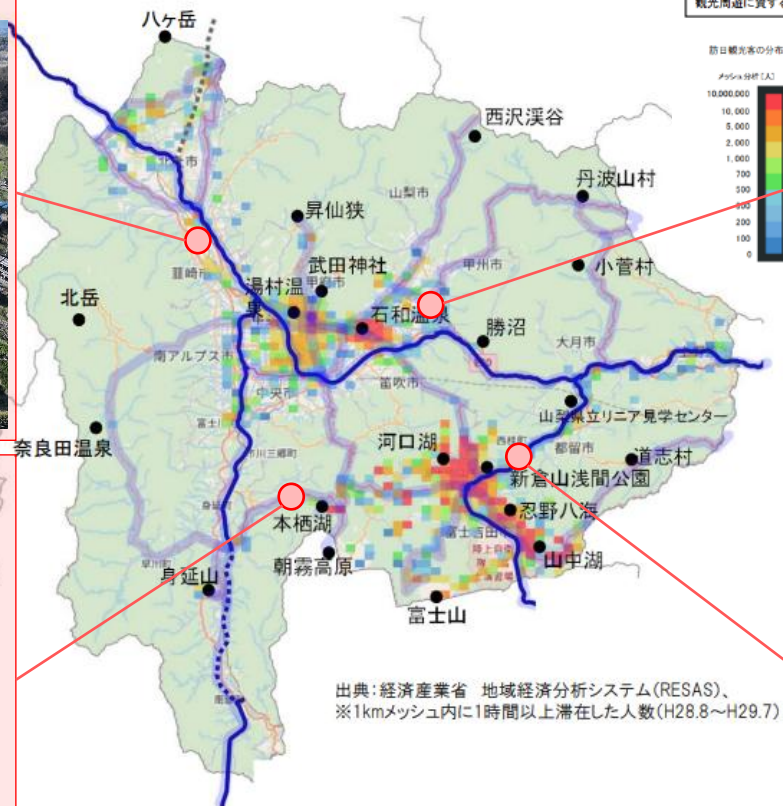
効果

- 観光周遊ルートの整備による主要観光地間のアクセス性向上及び観光客の移動負担の軽減
- 線形改良や現道拡幅等による走行性向上及び移動の円滑化
- 周遊観光の促進と地域間交流の拡大を支える道路基盤の形成

(主) 茅野北杜葦崎線(新府バイパス)



観光周遊ルート



国道411号(勝沼拡幅)



国道300号(中之倉バイパス)



(一) 富士吉田西桂都留線(小沼バイパス)



実績

- 県内9エリア全てにおける地域部会の設置及びモデルルートの設定完了
- モデルルート上における矢羽根・ピクトグラム等の自転車走行空間整備の推進
- モデルルートを紹介するサイクリングマップの作成

効果

- 自転車走行空間の整備による安全性及び走行快適性の向上
- サイクリングマップを活用した周遊促進による地域の賑わい創出への寄与
- 自然・景観等の観光資源を結ぶ新たなサイクルツーリズム基盤の形成



矢羽根型路面表示の通行状況



地域部会の様子

やまなし自転車ネットワーク モデルルートエリア

各地域サイクリングマップ

実績

- ポータルサイト「富士の国やまなしインフラガイド」への67施設掲載
- Instagram「県土やまなし未来づくり」の開設及び3,291フォロワーの獲得
- 48施設を掲載したインフラガイド15,000部の作成・配布
- 県内インフラ32施設のインフラカード及び3施設のプレミアムカードの作成・配布
- 大門ダム、琴川ダム、塩川ダム、雁坂トンネル等を対象としたインフラツーリズムの実施

効果

- ポータルサイトやSNSの活用によるインフラ情報への接点拡大
- 建設現場、公共眺望ポイント、イベント情報等の発信による県土整備への関心向上
- 現地見学やカード配布を契機としたインフラの観光資源化の促進



ポータルサイトトップページ



富士の国やまなしインフラガイド（抜粋）



インフラカード（抜粋）



インスタトップページ



インスタ投稿例



監査廊の見学



ダム湖周辺でのドローン飛行



ダム堤体下でのドローン飛行

実績

- 甲府駅南口周辺における県市共同の実施計画に基づく**甲府城周辺整備**の実施
- **(都) 加納岩小学校西通り線**をはじめとする都市計画道路の整備による**市街地内道路ネットワークの整備推進**
- **(都) 北口2号線**などの**土地区画整理事業**及び**丸の内一丁目地区**などの**市街地再開発事業**への支援による**公共施設整備**や**土地利用高度化**の推進

甲府城周辺地域の整備

舞鶴城公園（南広場）

- ✓ 甲府周辺地域活性化実施計画に基づき、史跡甲府城跡保存活用計画及び整備基本計画と整合を図りながら、魅力向上に繋がる甲府城南側エリアの整備を実施したことで、賑わいが創出された。



公園利用状況（暫定整備）

都市計画道路の整備

（都）加納岩小学校西通り線（山梨市下神内川地内）

【整備前】

- ✓ 山梨市駅南部の市街地において、幅員が狭く、歩道未整備のすれ違いも困難な交通環境

【整備後】

- ✓ 道路拡幅を実施し、市街地の渋滞が緩和され、通勤・通学や日常移動の快適性と利便性の向上に寄与



整備前



整備後

効果

- 甲府駅南口から甲府城周辺にかけた**景観・回遊性の向上**と**まちなかの賑わい創出への寄与**
- 交通分散による**市街地の渋滞緩和**と**日常移動の利便性向上**
- 防災性の向上と都市機能の集積による**安全で暮らしやすい市街地環境の形成**

土地区画整理事業

（都）北口2号線（甲府市朝日1丁目地内）

- ✓ 土地区画整理事業の実施により、歩行者と自転車の通行空間の分離、車両進入の抑制、景観整備を図った。



整備前



整備後

指標	当初 (R1)	実績 (R7)	目標 (R7)
指標8:効率的な森林施業に資する林内路網の整備延長 (km)	4,645	4,894	4,913

実績

- 森林施業や木材搬出を支える林道について、菅野盛里線ほか4路線の完成及び盛里王の入線ほか6路線の新規事業化
- 林道を補完する林業専用道について、大平1号支線ほか8路線の完成及び桤山1号支線ほか9路線の新規事業化
- 計画期間内における林内路網249kmの整備

効果

- 林内路網の整備による森林施業及び木材搬出の効率化
- 主伐・間伐・再造林の一体的な推進による森林資源の循環利用への寄与
- 林道の整備・機能強化による地域間連携及び災害時の代替路機能の確保

林道の整備

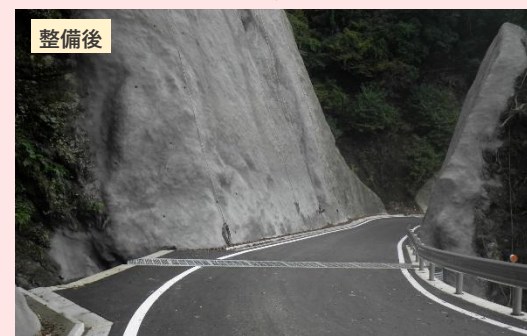
<新規事業化> 林道盛里王の入線



<完成> 林道菅野盛里線



<完成> 林道富士東部（北）線



指標	当初 (R1)	実績 (R7)	目標 (R7)
指標9:果樹産地等における基盤整備面積 (ha)	4,400	5,003	5,000

実績

- 果樹産地等において、**区画整理**、**農道整備**、**用排水路整備**等による**基盤整備603ha** (91地区) を実施
- **区画整理**による**農地の区画拡大**、**農道整備**による**作業用道路の拡幅**、**用排水路整備**による**かんがい・排水機能の改良**を推進

効果

- 農地の大区画化による**生産性の向上**
- 作業用道路の拡幅による**大型農業機械の導入促進**と**農作業の省力化・効率化**
- **安定的な用水供給**と**排水性向上**による**高品質な農産物生産への寄与**
- **担い手への農地集積・集約化を支える生産基盤の形成**

産地の競争力強化に向け、多様な担い手への農地集積・集約化を加速化させるため、畑地の基盤整備の推進が必要



基盤整備により農作業の効率化・省力化等が図られるとともに、多様な担い手への農地の集積・集約化を促進

